## 黙想:マグダラの聖 マリア(7月22日)

黙想のテーマ:「主に従った 女性たち」「マグダラの聖マ リア、使徒たちの使徒」「愛 に燃える心」

主に従った女性たち

マグダラの聖マリア、使徒たちの使 徒

愛に燃える心

多くの婦人たちが、主と使徒たちと 一緒にいました(ルカ8・3参照)。 彼女たちは、奉仕によって、神の国 を宣べ伝える使徒職的な努力に協力 しました。この婦人たちは、ほとん どの弟子たちとは違って、受難の時 にイエスを見捨てませんでした。十 字架のもとにイエスと共にいること によって、イエスを慰めたのです。 「最初に墓に行ったのは婦人たちで あって、それが空であることを発見 しました。最初に『あの方は、ここ にはおられない。かねて言われてい たとおり、復活なさったのだ』(マタ イ28・6) と聞いたのも、最初にイエ スの足を抱いた(マタイ28・9参照) のも、最初に復活の真相をまず使徒 たちに告げるように召されたのも彼 女たちでした | 🖽。 聖ホセマリア は、この聖なる女性たちがどのよう に行動したかについて黙想し、述べ ています。「苦難の時になると、女 性は男性よりも一層強く、より一層 忠実である。マグダラのマリアとマ

リア・クロパ、サロメを思い出してみなさい。この婦人たちのように勇敢で、悲しみの聖母と深く一致した婦人たちがいれば、どれほど偉大な使徒職が世界中で展開されることだろう」[2]。

このような忠誠心と不屈の精神は、 教会の歴史における多くの女性たち によっても示されてきました。「こ の女性たちは、その後の女性たちと ともに、自分たちのカリスマと奉什 によって最初の共同体とそれに続く ものを基礎からつくりあげ、初代教 会の生活に重要な働きをしてきまし た上頭。確かに「もし多くの女性た ちの寛大な貢献がなければ、教会の 歴史の発展はまったく違うものと なっていたでしょう | [4]。 また、現 代においても、「女性は、家庭、社 会、教会に、彼女たち自身のもので あり、彼女たちだけが与えることの できる特徴、すなわち、細やかな優 しさ、疲れを知らない寛大さ、具体

的なものへの愛、素早い機知と直感、謙虚で深い信仰、粘り強さをもたらすよう呼ばれています」 [5]。

キリストに従った女性たちの中で、マケリストに従った女性たちのった。としてもらい出した。彼女は、十字な存在でした。彼女はました。女子を表でいました。女はました。女は最初に主いののました。とは後によったのもとに駆けました。

イエスは、マグダラのマリアに栄光 の復活を告げる使命を、特別な形で 委ねました。「わたしの兄弟たちの ところへ行って、こう言いなさい。 『わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神である方のとうの、あなたがたの神である方のところへ行っとも子たちのところへ行っとも子たちのとました』と告げ、また、主から言われたことを伝えた」(ヨハネ20・17-18)。「聖トマリアに『使徒の使徒』

(apostolorum apostola)という独自の名を与えています。そしてトマスは、マグダラのマリアについてすばらしい解説を行います。『一人の女が人祖に死のことばを告げたように、一人の女が最初に使徒たちにいのちのことばを告げた』 | 「『」。

マグダラのマリアの模範に倣って、 キリスト信者は「復活されたキリストをのべ伝え」M、至る所で、喜んでキリストの御国を証する使命を持っています。マグダラのマリアは、キリストの墓の入口で、死んだ

と思っていた方が生きておられ、再 び自分の名を呼んでくださったこと を知ったとき、大喜びしました。 「復活した主の最初の出現がこのよ うに個人的な形で行われたと信じる ことは、何と素晴らしいことでしょ う。わたしたちのことを知っておら れ、わたしたちが苦しんだり失望し たりしているのを見て、わたしたち とともに感動し、わたしたちを名前 で呼んでくださる方がいることに思 いをはせるのは、何と素晴らしいこ とでしょう…。一人ひとりの人間 は、神が地上に記したラブストー リーです | 図。 私たちの証と言葉に よって、私たちは主が復活されたこ と、主が私たちの中に生きておられ ること、私たちの名前を呼んで、私

たちに救いをもたらしてくださるこ とを告げることができるのです。

キリストと出会う前、マグダラのマ リアは、苦悩に満ちた日々を送って いました。主は、彼女から七つの悪 霊を追い出しました。癒された後、 彼女は深い愛と感謝の気持ちを持っ て、主に従い始めました。受難のと き、彼女は主のそばを離れることを 拒み、主の御体を墓に運ぶ弟子たち に同行しました。週の初めの日の朝 早く、彼女は、主の御体に香料を添 えるために急いでいました。イエス は死んだと思っても、彼女のキリス トへの熱烈な愛は、生き続けていま した。

マリアには多くの弱さがありましたが、もはや罪に人生を導かれるこ自身の全存在に意味を与える愛を発見したのです。だからこそ、彼女が、したのかった最初の人でした。そことがに向かった最初はイエスを見つける「忍をはんでしたが、彼女は「忍をはく探し続け、最後にはイエスを見

つけました。遅れたことで彼女の熱意が増し、探していた方を見つけることができたのです | [9]。

マグダラの聖マリアは、キリスト信 者の生活が、キリストとの個人的な 出会いに基づいていることを、私た ちに示しています。イエスとの交流 から、主を中心とした新しい人生を 送りたいという願望が生まれます。 聖なる女性たちと一緒にいること で、マグダラのマリアもまた、イエ スの母と、親密な友情を育むことが できたに違いありません。十字架の もとで、主のそばに留まることを可 能にした忍耐強い愛を、私たちに与 えてくださるよう、二人にお願いし ましょう。

[1] 聖ヨハネ・パウロ二世『女性の 尊厳と使命』16番。

- [2] 聖ホセマリア『道』982番。
- [3] 聖ヨハネ・パウロ二世『女性の 尊厳と使命』27番。
- [4] ベネディクト十六世、一般謁見 演説、2007年2月14日。
- [5] 聖ホセマリア『会見集』87番。
- [6] ベネディクト十六世、一般謁見 演説、2007年2月14日。
- [7] ローマ・ミサ典礼書、マグダラの聖マリアの祝日の集会祈願。
- [8] フランシスコ、一般謁見演説、 2017年5月17日。
- [9] 大聖グレゴリオ、説教25,1-2.4-5: PL 76, 1189-1193.

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-magudara-maria/(2025/12/16)